

平成 20 年度第 2 回心理学教育 FD/IT 活用研究委員会議事概要

- I. 日時 : 平成 20 年 8 月 28 日 (木) 午後 2 時分から午後 4 時まで
- II. 場所 : 私立大学情報教育協会 事務局 会議室
- III. 出席者 : 木村委員長、今井副委員長、今井久委員、大島委員 (記録担当)
中澤委員、金子委員
井端事務局長、森下、恩田
- IV. 議事概要

心理学教育における学士力について

(1) 本委員会の検討スケジュールについて

本委員会では 2 段階に分けて学士力を検討する。

- ① 「各専攻分野を通じて培う『学士力』」を端的で簡潔な表現に纏め、文部科学省に報告する。(本年度 11 月頃)
- ② 分野共通の事項も含まより詳細な学士力、コアカリ、到達目標、測定手段等の検討を次年度で行う。

本年度の検討は、1 つの能力について 2 行、3 つか 4 つの能力をあげ、全体で 6~8 行程度とし、心理学の専門用語を使わず、読み取りやすい表現を心がける。
次年度は分野共通の事項も含まより詳細な学士力を検討したい。

(2) 検討内容

今回の委員会では、本年度に提案する簡潔な案を作成することで、議論を開始し、まず、「科学的な手法を身につける」という枠組みで表現についての議論を行った。委員の案をもとに「人間の行動に関わる現象の原因を明らかにするための手法を用いることができる」という素案を作成して検討した。
この案については、議論の結果、「手法」を限定する用語として「客観的な」を加えること、「行動」だけでなく「心」も加えることで合意した。
次に、「人間の行動を個人と環境の相互関係という視点から理解できるという能力」という側面を取り上げ、「人間の行動が個人的要因と社会・文化的要因の影響を受けていることを理解できる」という素案を作成して検討し、この案についても、「行動」だけでなく「心」も加えることになった。
もうひとつの能力として、倫理性や人間の尊厳の理解についての問題が議論され、「個性の尊重」や「他者の理解」をめぐって議論が展開したが、「人の気持ちを偏見無く受けとめ、理解し、公平に判断することができる」を最終案とした。
以上をまとめ、心理学の学士力として以下の 3 つを委員会の案とすることにした。

心理学教育における学士力（案）

1. 人間の心や行動に関わる現象の原因を明らかにするための客観的な手法を用いることができる。
2. 人間の心や行動が個人的要因と社会・文化的要因の影響を受けていることを理解できる。
3. 人の気持ちを偏見無く受けとめ、理解し、公平に判断することができる。

2. 今後の活動について

私立大学情報教育協会に登録されている、心理学分野の大学教員（サイバーFD 研究員）に対して今回の委員会（案）のメールを送り、ご意見を聞くことにした。

メールの送付は9月20日前後とし、1週間程度でこの案についての意見を聞く、その反応を踏まえて、もう一度委員会を開催し、検討する。

各委員は、それぞれ本日の（案）を関係する社会人と意見交換する機会を持ち、社会人の意見を次回の委員に持ち寄り検討することとした。

反応が得られたら委員会の前に事前検討できるように委員にはメールで送付することとした。

3. その他

次回委員会：10月4日（土） 午後5時30分から7時30分まで

場所：私情協事務局

宿題：各委員は、それぞれ本日の（案）を関係する社会人と意見交換する機会を持ち、社会人の意見を次回の委員に持ち寄り検討する。